

Midterm Presentation

Yuma Kaida
Jonathan Phan
Kaori Shiina
Ryo Uchiyama



今までに教えた事

- あいさつ
- カタカナ(自分の名前の書き方):フォルダーに記名
- 色:ポインティングアウトゲーム、フルーツバスケット
- 方向・顔のパーツ:福笑い
- 数字(1~10): 神経衰弱

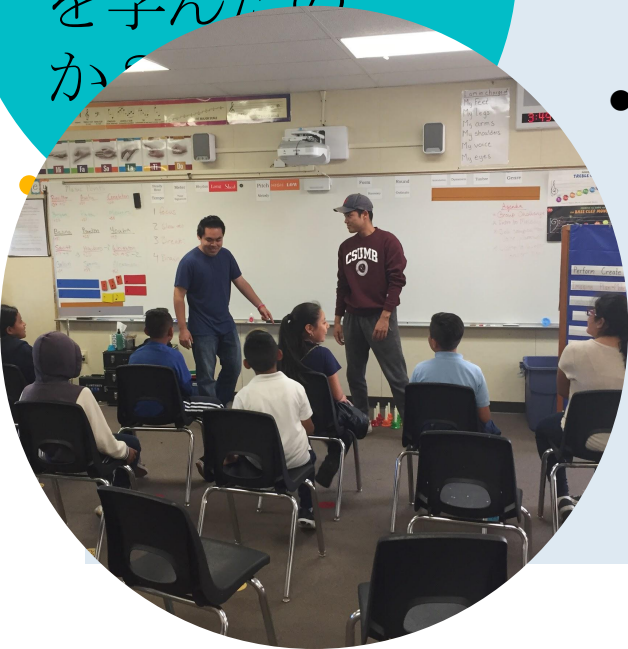


ユウマ

- 生徒達は聞いているだけだと、集中できない事が多く、視覚的に自分が動いて活動の説明をする重要性を学びました。
 - 競争のゲームで生徒全員が同時に競争すると怪我をする可能性があるので、あんまり激しい競争だと危険である事を学びました。
 - 活動最中で生徒がいきなり話をする事や手を上げないで答えたりする傾向があるので、生徒に駄目な行為を注意することの重要性を学びました。
- 生徒達が活動に関して理解できない場合、簡単に説明することの重要性を学びました。



SLアクティビティを通じて何を学んだのか



ジョナサン

- 先生と生徒の関係性を保つことの大切さ。
 - 生徒が私達を先生じゃなくて、友達として見てしまうと私たちの話を聞かなくなるから。
- 子供たちは自信がない時、学ぼうとする、気持ちが起きない。
 - 子供たちが何かができないと思った時に、それをやる意味を感じていない。

SLアクティビティを通じて何を学んだのか？



カオリ

- ・子ども達の関心を集めること、
クラスルームマネジメントの重要性
- ・英語で説明すること、質問対応の難しさ
- ・生徒の理解度を把握するための
アクティビティの重要性
- ・アウトカムを意識した授業を
おこなうことの難しさ

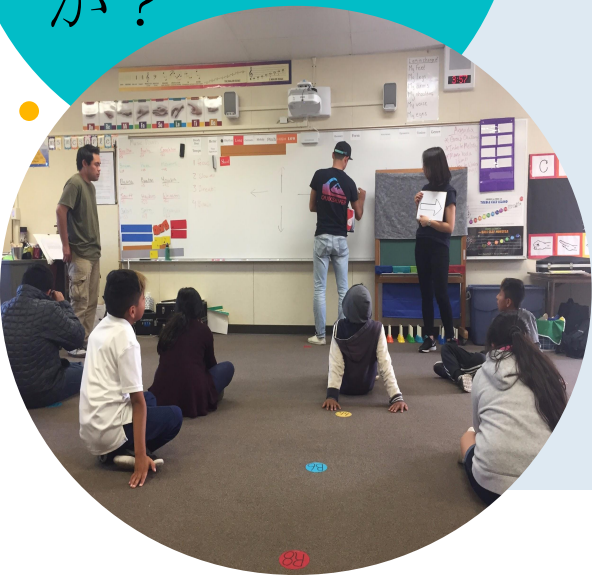
SLアクティビティを通じて何を学んだのか？



リョウ



SLアクティビティを通じて何を学んだのか？



- 多くの子どもたちが、日本独自の文化とその他の東アジアの文化を混同して、認識していた。
➡日本人との関わり、生の教材を使い、ステレオタイプを変えていく
- 日本という国の文化に触れることを楽しんでいる。
➡ほとんどの子が海外の文化に触れる事が初めて。
- 異文化の違いばかりに焦点を当てすぎず、類似点にも触れる重要性。
➡人種、民族を超えたものの見方
- 簡単な算数を理解できていない子がいる。
➡初等教育における不平等の潜在





上手くいったこと



- ・今後の授業の前後に繰り返し使用する言葉を早い段階で教えたことで、子ども達への記憶の定着をはかることができた
- ・日本語や日本文化を学ぶことに興味を持ってくれたため、子ども達が楽しんでくれた
- ・様々なゲームを通して、効果的に日本とアメリカの文化の違いを教え、覚えてもらうことができた
- ・アウトカムと関連したマテリアルの準備をしっかりと行うことができた





難しかったこと



- 子供達が元気すぎたので、教えにくかった。
- それぞれのグループの教え方が違ったから、終わったタイミングが違った。
- 子供たちは若いから、抽象的な考え方を理解できていなかった。
- 授業の説明をしている人が困っていた時に他のメンバーがどのように手伝えればよいのかわからなかった。





どの様に改善したか



- 生徒達が元気すぎる場合は生徒に「落ち着いて、静かにして下さい」と言う事。
- 私達がグループに分かれる時は前もって話し合っって同じ教え方をする事。
- 子供達と大人のレベルが違うので子供達のレベルに合わせて準備する。
- 実際に授業を行う前にグループ内で授業内容をしっかり、はあくしておき、いつでも助けられる様に準備しておく。



今後の展望



- 日本文化の授業を通じて、異文化に触れるきっかけを持ってもらう。
 - ➡ 視覚的な教材、我々が実際にデモンストレーションを行う事で、生徒たちの理解度を深める。
- リーディングを通して学んだように、子どもたちの目線に立って視野を広げるきっかけとなるような授業を意識する。
 - ➡ 子ども達の理解度をはかるアクティビティを用意する。

